

西兩國廣小路にかゝる三月上旬の真行仕仕

舶来大象之譜

虞舜の孝感天と動一 大象来て田を良提婆の暴戾神を怒一 白象をて憐む夫象の来りて三獸  
 の一と蚕椰子虎の猛獸と比を魚に非を西客心小望何れ象を祈りて宿願を成し印度の蒼生象を輕蔑  
 せしむるに其宗を受とつり 今般歐邏巴人天竺馬爾加國より一疋の大象を得て我神洲小渡來せり生より  
 僅小三歳未骨肉充滿せられも圖計小遊ばせ清食淨状人林も及ば夜子以明て寅も起唇ハ三度居處を改  
 む火のつらと死のあふ烈しく水も逢て夏高も不知さふく堯舜の聖代に麒麟原野小遊び鳳凰梧桐小宿せり  
 とうや今四海の浪靜小治や國風豊小あはれ万民和まき戸々小千秋樂を唱一家々に万歳樂をうふ是偏小  
 天京地封の徳澤や將小天獸乃祥瑞あるも寛仁大度乃餘慶あるべし中兵蘭人寄陽小持渡一も  
 光陰の關門にへそられまの象を畫圖小觀面已まの裁泰平の時小生ま我人をふ此聖獸を目前りたる  
 らゆやえたるも十載不朽の面目あり萬古未幾の奇事といふべしやま諸君子競りて駕を曲列て來臨まれじといふ  
 千時文久三癸亥春季上旬 假名恒曾文操觚



一之電齋尉  
 廿芳豊  
 筆

通油町  
 藤岡屋慶次郎版